

## 小林 義雄\*: シイタケの分布の南限

Yosio KOBAYASI\*: Tropical distribution of *Lentinus edodes*

(Pl. X)

シイタケの分布に関して、さきに記したように(植研 26(1): 29—31 (1951)), 我国では南は屋久島, 八丈島まで分布し, 琉球, 小笠原島からの報告は無い。韓国, 中国(旧満洲国を含めて)からは, 私の知る限りでは確実に野生するという記録がない。戦前からこれらの地域では日本からの菌株を用いて栽培が試みられて居るから, これらが野生化することはいずれ得る訳であるが, 野生品と栽培品とは生態, 形態其他の点で凡その鑑別は出来る。中国料理に盛んに用いられているから中国にも産するのであろうというのは全く素人的観察であり, シイタケが日本から輸出される以前には中国では口蘑, 草菇などが用いられて居った。

台湾からは沢田(1936)の確実な報告がある。即ち 600—1500 m の山地のコバンモチ, カシ類の林から記録されている。熱帯に進むにしたがいカシ類の分布は低地から山地へ移るのであるから, もし熱帯にシイタケを探すとすれば山地のカシ林に目をつけるべきである。Mendoza(1938)はフィリピンの菌類誌にシイタケの写真を載せ日本からの輸入品と明記している点から, フィリピンにもシイタケは見出されて居らないらしい。

熱帯地方に於ける唯一の報告は戦時中セレベス島のマカレー県ボロカンの 1250 m の山地でカシ類について居たという平野哲夫氏の話が私が聞いたことである。私はこの話を信用して居るが, 確実な標本による実証が出来ないままにあるのは残念である。しかし私は其他の熱帯圏で 2000 m 前後の高地で雨量に富み, カシ属或はそれに近縁の寄主があれば, シイタケの発生を期待出来ると考えて居った。

私は 1966 年 4 月より 5 月にかけてボルネオの西岸および北部を旅行する機会を得て, 同時に数十年来の夢であった Mt. Kinabalu (4100 m) 登頂の念願も果すことが出来た。

実はこの登山の一つの理由は同山産の *Trigonobalanus* が *Nothofagus* に多少類縁があるということで, しからばこの属にも *Nothofagus* と同様に *Cyttaria* 菌が見出せそうな淡い期待があったからであり, 現地で *Trigonobalanus* の生育しているカシ林を探した結果, *Cyttaria* は見出し得ずに代りにシイタケが発見された次第である。発見の場処は山麓の発電所(1800 m)と Kambarangoh の無電中断所(2100 m)との中間で山径には木材を並べてつくったハシゴが延々と続いて居り, 周囲はこの山に 60 種もあると云われているカシ樹を主とする藓林である。因みに藓林の上部は針葉樹に代って行くが大体 1800 m より 3000 m の間によく発達している。はじめこのハシゴ材の上に見

\* 国立科学博物館, National Science Museum, Tokyo.

出したので、周囲を注意して行ったところカシ類の枝に美事にシイタケが発生しているのを見出したのである。

本菌は栽培種に比べて柄が細く傘肉が薄く上面は平滑で鱗片がない。山径の諸処には数種のウツボカズラ (*Nepenthes*) が目を惹いた。そのうち極めて普通の種類はプレートに掲げた *N. villosa* である。また美しいシャクナゲ類やラン科植物も花盛りでであった。

***Lentinus edodes*** (Berk.) Sing., in *Mycologia* **33**: 447 (1941) et *Agaricales* ed. 1: 279 (1949) et ed. 2: 176 (1962).

Pileus 2.5-8 cm. orbicular, flesh thin, margin slightly sinuate, curved, tomentose when young, then smooth, thin, entire; surface smooth, viscid, destitute of scales, brown (Cinnamon rufous -Hazel), darker at center, not cracked. Gills dense narrow sinuate, white, changing purplish brown after maturity, edge entire or minutely serrate. Stalk central or subeccentric, slender 6-7×25-35 mm., purplish brown, upward paler and smooth. Hyphae of pileus and gills 6-18  $\mu$  thick, somewhat thick-walled with clamp. Hymenial formation irregular. Basidia clavate 17-20×4-5  $\mu$ , with 1, 2, 4 sterigmata. Basidiospores ovoid or ellipsoid, 4.5-5.5×3-3.5  $\mu$ .

Hab. On branch of *Quercus* sp. among moss forest, Kambarangoh Wireless Station (2,100 m. alt.), Mt. Kinabalu, N. Borneo (Y. Kobayasi, April 30, 1966).

Compared with Japanese wild and cultivated shiitake, this tropical strain has such characteristics as thin flesh, slender stalk and not scaly surface.

### Explanation of the Plate X

A, B. “Shiitake” (*Lentinus edodes*) found in oak forest of Mt. Kinabalu, N. Borneo.

C. Pitcher plant (*Nepenthes villosa*) of Mt. Kinabalu.

D. Oak forest.

□Yong No Lee: **Manual of The Korean Grasses** (Excluding Bambuseae) 300 pp. 1966. 韓国全土のイネ科植物をまとめたもので、240 種がとりあつかわれている。亜科と族については新しい知見がもりこまれている。特にススキ属では、Section を解剖学的な立場から分類されていて面白い。おのおのの種には検索表と簡単な記載がついている。挿図は欲をいうと少し大きくした方が使いやすかったと思う。付録に飼料になる種類を紹介し、外来のイネ科のリストもついている。Dr. I. Chung の *Korean Grasses* (1965) と合わせて韓国のイネ科植物を研究するには便利である。\$ 5, ソウル 梨花大学出版で東大前井上書店に出ている。(許建昌)



Y. KOBAYASI: On *Lentinus edodes*